



## 「地域の力」診断ツール活用

### 《地域のワークショップ》

質問票・アンケート集計結果&ワークショップご報告



開催日時:2016年7月14日(木)19:00~20:50

場所:JA 静岡市丸子支店会議室(静岡市駿河区丸子 6-7-4)

主催:認定 NPO 法人丸子まちづくり協議会

共催:静岡県立大学「ふじのくに」みらい共育センター(COC 事業)

協力:一般財団法人 CSO ネットワーク

# 目次

---

「地域の力」診断ツールの結果まとめ . . .	P. 2
1. 質問票の集計結果 ～分野別平均～ . . .	P. 3-4
2. 質問票の集計結果 ～質問ごとの平均～ . . .	P. 5-7
3. 主観的幸福度 ～アンケート回答結果～ . . .	P. 8
4. 主観的幸福度 ～他の質問との関係～ . . .	P. 9-10
5. 主観的幸福度 ～記述回答結果～ . . .	P. 11-13
6. 回答者の属性別主観的幸福度 . . .	P. 14-15
7. ワークショップ 各グループの発表 . . .	P. 16-18



## 「地域の力」診断ツール活用《地域のワークショップ》 質問票・アンケート集計結果&ワークショップご報告

2016年7月14日（木）静岡県静岡市駿河区丸子地域にて、地域組織がともに活動する「認定NPO法人丸子まちづくり協議会」の皆さま20名にお集まりいただき、「地域の力」診断ツールを活用したワークショップを開催させていただきました。「地域の力」診断ツールの結果およびワークショップの様子を以下にまとめて報告させていただきます。

### 「地域の力」診断ツールの結果まとめ

- ・評価が最も高かったのは、地域の人々による参画と協力を測る「共生社会」の分野でした。個々の質問では「地域のための組織の多さ」や「祭りや伝統行事の活発さ」「地域住民による防災への取り組み」についての評価が高く、「丸子まちづくり協議会」による、祭りや伝統行事、防災への取り組みが、地域の強みとして共通して認識されていることがわかりました。
- ・評価が低かったのは、「経済・金融・産業」の分野でした。中でも「農林業の後継者」「起業の環境」「住民による商品開発」など、地域経済の持続性に関わる後継者の問題や、新たなビジネスの醸成等が今後の課題として共通して認識されていました。
- ・丸子地域に対する満足度、地域への愛着、誇り、住み続けたいとの思いは、ご回答者の皆さんに共通して大変高いものでした。愛着や誇りを感じる理由としては、人の良さ、人とのつながりに関するものが最も多く見られました。理想とする地域についても、人とのつながりの強さや住民の自発的活動の活発さを多くの方があげられていました。

## 1. 質問票の集計結果 ～分野別平均～

ご参加者全員の回答を 6 つの分野ごとに集計し平均を出しグラフ化しました。回答のばらつきをみるために標準偏差の値も算出しました。結果は以下のようになりました。平均の中央の値は 2.5 ですので、2.5 より大きければ評価が高く、小さければ評価が低いということになります。標準偏差については、「(平均値 - 標準偏差) ～ (平均値 + 標準偏差)」の範囲に、およそ 7 割の方が回答されていると考えることができます。

### 参加者全員の分野別回答の平均と標準偏差

	1. 共生社会	2. 経済/金融	3. 自然との共生	4. 暮らしと生活	5. 公共施設	6. 文化と伝統	7. 主観的幸福度
平均	2.85	2.06	2.20	2.38	2.37	2.32	3.24
標準偏差	0.95	0.78	0.83	0.88	0.89	0.83	0.67

緑：平均高 黄色：平均低

- 全体の平均は 2.36、標準偏差は 0.76 でした。中央値が 2.5 であることを踏まえると、全体としてはやや低めの評価になったと言えるかもしれません。

### 数字から見える強みと弱みは・・・？

平均が最も高かったのは「共生社会」の分野でした。

この「共生社会」は最もばらつきの大きな分野でもありました。

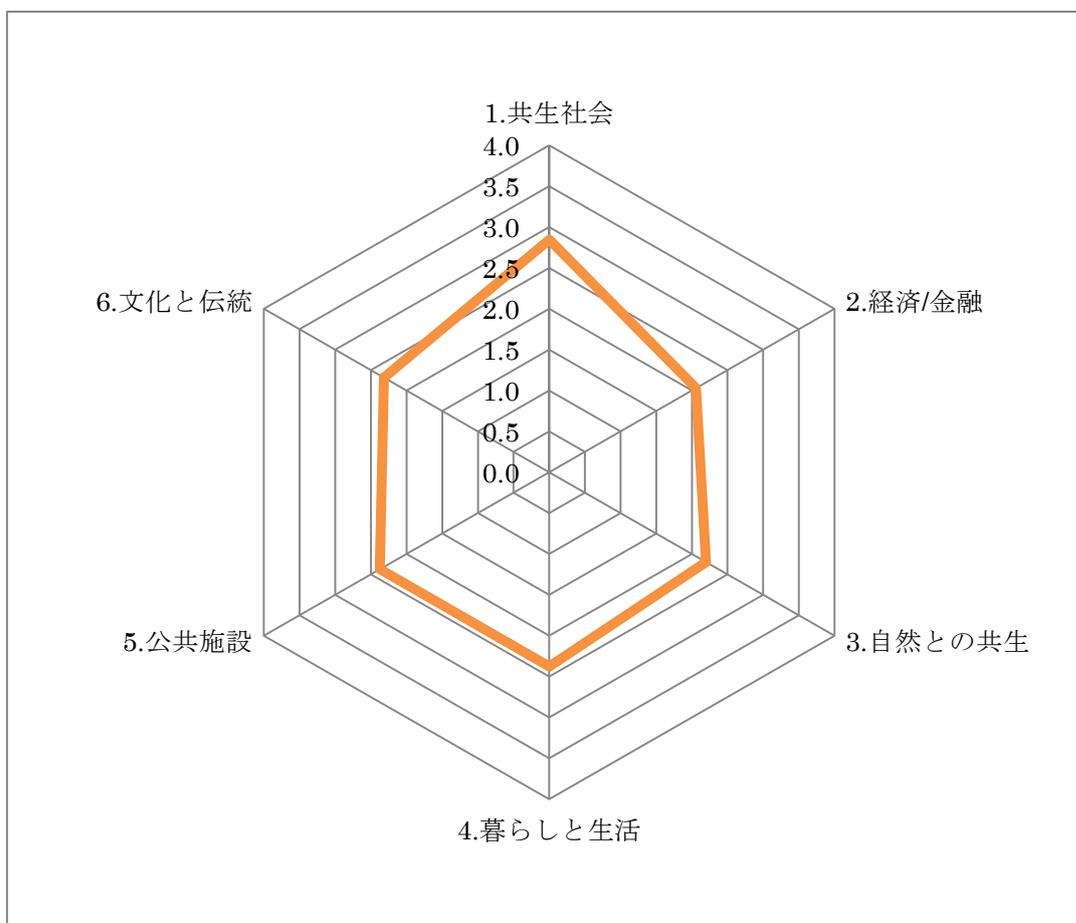
丸子地域のつながりを評価する回答が多かった一方で、地域への関わり方によって評価が分かれたと言えるのかもしれません。

平均が最も低かったのは「経済・金融・産業」の分野でした。

この分野は、回答に最もばらつきが少なく、ご回答者の皆さまに共通して地域の「弱み」という認識がなされているとすることができるでしょう。

- 2番目に平均が低く、2番目に標準偏差の低い「自然との共生」についても、「経済・金融・産業」と同様に「弱み」としての認識が共有されているように見受けられます。
- 主観的幸福度については、全体平均にも加えず、チャートへの表示もしていませんが、その平均はどの分野よりも高く、ばらつきはどの分野よりも低いことから、地域に対する主観的満足度の高さや住み続けたいとの思いは、地域の皆さんに共通していると言えるでしょう。

### ご参加者全員の分野別平均グラフ



## 2. 質問票の集計結果 ～質問ごとの平均～

6つの分野の64問の質問毎に、ご回答者全員の平均と標準偏差の値を算出し、平均の高い質問、低い質問、標準偏差の高い質問、低い質問をリストにしてみました。（全体の平均は2.36、標準偏差は0.76です。）

### 平均の**高い**質問リスト

番号	分野	質問内容	平均	標準偏差
Q1	1. 共生社会	地域運営組織の多さ	3.632	0.581
Q59	6. 文化伝統	地域の祭りや伝統行事	3.368	0.581
Q55	5. 公共施設	地域住民による防災への取り組み	3.263	0.636
Q18	2. 経済金融	地域の商店での買い物	3.263	0.909
Q9	1. 共生社会	消防団の活動	3.211	0.893
Q12	1. 共生社会	地域の取り組みの外部への発信	3.158	0.933
Q8	1. 共生社会	治安の面での安全	3.053	1.050

### 平均の**高い**質問

- 「Q1：地域運営組織の多さ」「Q59：地域の祭りや伝統行事が盛んであるかどうか」「Q55：地域住民による防災への取り組みが盛んであるか」については平均が高く（評価する回答が多く）、回答のばらつきも小さいことから、それらの項目への高い評価が共有されていることがうかがえます。「丸子まちづくり協議会」にみられる地域組織の多さや、丸子宿場祭り等にみられる祭りや伝統行事への積極的な取り組み、アマチュア無線100人ネットワーク等にみられる地域防災への取り組みが、丸子地域の強みとしてしっかりと共有されていると思われます。
- 平均の高い質問に「1. 共生社会」の分野が多いことから、地域を支える活動に地域の人々が自ら汗を流し積極的に取り組んでいる様子がうかがえます。

### 平均の低い質問リスト

番号	分野	質問内容	平均	標準偏差
Q23	2. 経済金融	農林水産業の後継者	1.474	0.499
Q53	5. 公共施設	地域内エネルギー自給	1.474	0.595
Q16	2. 経済金融	起業の環境	1.579	0.591
Q21	2. 経済金融	住民による商品開発	1.579	0.815
Q24	2. 経済金融	自治体による新規就農支援制度	1.579	0.748
Q31	3. 自然との共生	自然エネルギーの開発	1.579	1.042
Q56	5. 公共設備	空き家情報の把握と利活用	1.63158	0.666

#### 平均の低い質問

- 一方、「Q23：農林水産業の後継者がいるかどうか」「Q53：地域内エネルギー自給への取り組み」「Q16：起業の環境が整っているか」については評価の低い回答が多く、回答のばらつきも比較的小さいことから、これらの項目に対する評価の低さは共有されていると思われます。地域経済の持続性に関わる後継者の問題や、新たなビジネスの醸成等が今後の丸子地域の課題と言えるのかもかもしれません。
- 平均の低い質問が「2. 経済・金融・産業」分野に多いことから、産業の後継者づくりや、地域資源の商業利用など、行政や企業等との連携にもチャレンジされる中で、制度面等にも関わっていかれることが期待されます。

### 回答のばらつきの小さい質問リスト

番号	分野	質問内容	平均	標準偏差
Q23	2. 経済金融	農林水産業の後継者	1.474	0.499
Q27	3. 自然との共生	家庭菜園・市民農園	2.737	0.547
Q1	1. 共生社会	地域運営組織の多さ	3.632	0.581
Q59	6. 文化伝統	地域の祭りや伝統行事	3.368	0.581
Q16	2. 経済金融	起業の環境	1.579	0.591
Q53	5. 公共施設	地域内エネルギー自給	1.477	0.595
Q55	5. 公共施設	地域住民による防災への取り組み	3.263	0.636

平均が高く標準偏差の小さい質問（強みとしての共通認識があると言える項目）

平均が低く標準偏差の小さい質問（弱みとしての共通認識があると言える項目）

- 回答にばらつきの少ない質問は、平均の高いものと低いものともに集まる傾向が見られましたが、この中で唯一中くらいの評価で意見のばらつきの少なかった「Q27. 家庭菜園・市民農園をしている人の多さ」に関する質問も決して評価が低いというわけではなく、「家庭菜園・市民農園をしている人がよくいる(選択肢3)」に近い評価でした。例えば、評価の低かった「農林水産業の後継者不足」と比較的高い評価の「家庭菜園・市民農園への関心」を結びつけるような取り組みを模索するようなことはできないものでしょうか。

### 回答のばらつきの大きい質問リスト

番号	分野	質問内容	平均	標準偏差
Q10	1. 共生社会	都市との交流	2.368	1.134
Q7	1. 共生社会	住民による自治体への働きかけ	2.684	1.126
Q3	1. 共生社会	地域活動(ボランティア活動)	2.947	1.099
Q51	5. 公共施設	図書館等公共施設の利用	2.474	1.094
Q52	5. 公共施設	地域の拠点となる施設	2.158	1.089
Q49	5. 公共施設	自転車の利用	2.789	1.055
Q8	1. 共生社会	治安の面での安全	3.053	1.050

- 回答のばらつきの大きい質問の分野は「1. 共生社会」と「5. 公共施設」に集中しており、これらのテーマに関心のある方とない方との間で認識に隔たりのある様子がうかがえます。あるいは、地域活動に積極的な方にとっては、「Q52: 地域の拠点となる施設」や「Q3: 地域活動(ボランティア活動)」については、問題意識が高いために辛口の評価になる傾向があり、その分ばらつきが大きくなるのかもしれませんが。(問題意識の高さが辛口の評価につながる傾向については、ワークショップ終了後の懇親会の中でもご指摘をいただきました。)

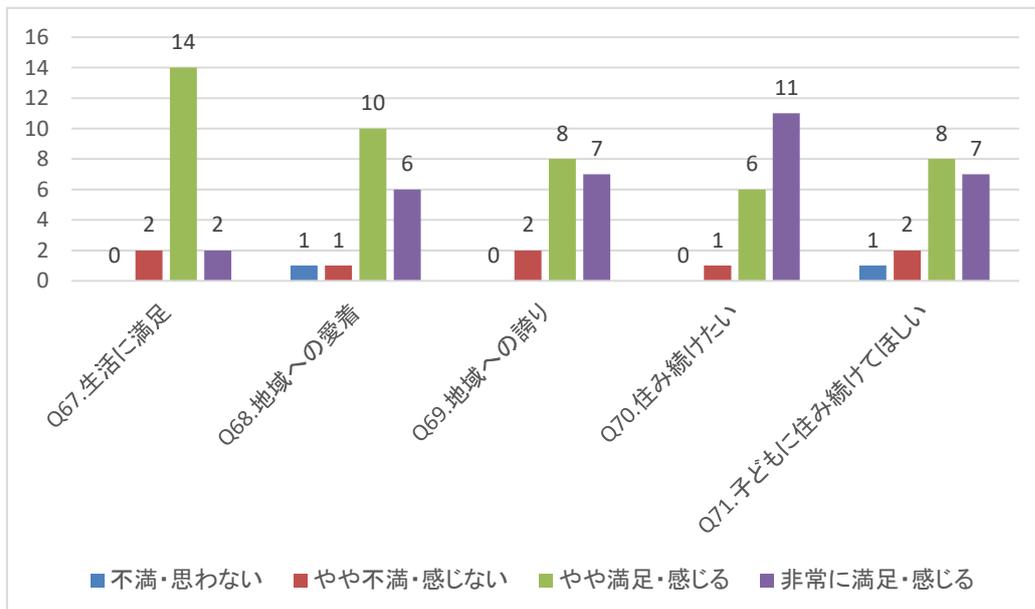
### 3. 主観的幸福度 ～アンケートの回答結果～

別紙にてご回答いただいた主観的幸福度に関する5つの質問についても、ご参加者の平均と標準偏差を算出しました。

参加者全員の主観的幸福度回答の平均と標準偏差

番号	主観的幸福度質問	平均	標準偏差
Q67	生活に満足	3.000	0.471
Q68	地域への愛着	3.167	0.764
Q69	地域への誇り	3.294	0.666
Q70	地域に住み続けたい	3.556	0.598
Q71	子どもに住み続けてほしい	3.167	0.833
全体平均		3.237	0.666

図2：参加者全員の主観的幸福度質問別回答のグラフ



- 主観的幸福度の平均は、他の6つの分野の回答と比較すると、どの分野よりも高く、またばらつきもどの分野よりも低いという結果になりました。地域への満足度、地域への愛着、誇り、住み続けたいという思いはご回答いただいた皆様に共通して高いことがわかりました。特に、「Q70：この地域に住み続けたい」の質問に対して「4：そう思う」との回答は、全体の6割以上の方に共通した強い思いであることがわかりました。

## 4. 主観的幸福度 ～他の質問との関係～

主観的幸福度に関する5つの質問に対する回答について、他の回答との相関係数を算出して相関関係を調べてみました。

### 主観的幸福度と各質問との相関係数リスト（0.5以上のものを表示）

番号		q3	q6	q10	q12	q17	q24	q31	q35	q36	q37	q39	q55	q69
		ボランティア活動	自治体の多様性への配慮	都市との交流	外部への取り組み発信	商工業の後継者	自治体の新規就農支援	自然エネルギー開発	耕作放棄地削減の取り組み	高齢者の活躍の場所	高齢者の見守り	健康長寿への取り組み	住民による防災への取り組み	地域への誇り
q67	生活に満足		-0.527				-0.510					0.535		
q68	地域への愛着													
q69	地域への誇り	0.506			0.630	-0.575		-0.510		0.590	0.580			
q70	地域に住み続けたい	0.513			0.534	-0.578					0.566		0.552	0.746
q71	子どもに住み続けてほしい	0.675		0.509					0.585					

- 主観的幸福度に関する5つの質問同士の関係は、「Q69：地域への誇り」と、「Q70：地域に住み続けたい」との間に強い相関関係がみられました（相関係数：0.746）。地域に誇りを感じている方ほどこの地域に住み続けたいと感じておられる傾向を示していると言えるでしょう。
- 主観的幸福度と他の質問との関係で注目されるのは、「Q3：ボランティア活動が盛んである」と評価した人ほど「Q69：地域への誇り」や「Q70：地域に住み続けたい」「Q71：子供に住み続けてほしい」を感じている点です。コミュニティへの関わりに対する高評価と地域への満足度の間にはプラスの相関関係があると考えられるでしょう。
- 他にも、主観的満足度と相関の高い質問として、「Q10：都市との交流」「Q12：外部への取り組み発信」「Q35：耕作放棄地削減の取り組み」「Q36：高齢者の活躍の場所」「Q37：高齢者の見守り」「Q39：健康長寿への取り組み」「Q55：住民による防災への取り組み」等があり、これらの質問への高評価と地域での生活満足度や地域に住み続けたいとの回答がプラスの相関関係を持っていることがわかりました。いずれも地域活動に関わる質問であり、地域活動へ

の高評価と主観的満足度との間にはプラスの相関関係があると考えられることができるでしょう。

- 逆に、主観的幸福度に高い回答をした方が、低い評価をつけた質問については、相関係数がマイナスとして表れています。「Q6：自治体の多様性への配慮」「Q17：商工業の後継者」「Q24：自治体の新規就農支援」「Q31：自然エネルギー開発」が該当する質問ですが、これらの質問に対する低い評価と主観的幸福度への高い評価がマイナスの相関関係にあるということは、現在の丸子地域の満足度にとっては、これらの指標はあまり重要ではないと解釈することができるでしょう。しかし一方で、「Q6：自治体の多様性への配慮」「Q17：商工業の後継者」に関しては、平均が極端に低い項目でもないのに、地域に満足している方から厳しい評価を受けていることから、今後の地域づくりのポイントになる可能性もあると考えることができるかもしれません。この点については、地域の方たちの中で今後議論していただければと思います。

## 5. 主観的幸福度 ～記述回答～

地域に対して愛着や誇りを感じていると答えた方による、愛着や誇りの理由についての記述回答は、以下のようになりました。

### 1. 愛着・誇りに関する記述回答

#### 主観的幸福度 Q68：愛着に関する記述回答一覧

Q68-2. どんどころに愛着を感じていますか。 (Q68 で愛着を感じていると答えた方のみ回答)	
なんとなく。	自然、景観、人間性。
人間性。	お金はないですけど安心して暮らせます。
自然が豊かである。人々が助け合っている。	自然環境（山、川がある）
共助のシステムを整える取り組みが成されている。	生まれ育った所だから。
地域活性について尽力している点。	人々との絆も深く、安心して住むことが出来ます。
住んでいる環境が良い。地域での NPO 等参加出来ること。	丸子には良い人が多い。
歴史、史蹟、名所、自然等資源が豊富。	長年住んでいるため。
地域住民の繋がりが強い。	生まれ育った土地で世話になった人も多い。

- 愛着の内容としては、「人間性」「人々の絆」「共助のシステム」等、人の良さや人とのつながりをあげる回答が 16 人中 10 人で全体の 6 割以上と最も多くみられました。また「自然」「環境」「安心」を挙げる人も 5 人ずつ（約 3 割）おられました。

主観的幸福度 Q69：誇りに関する記述回答一覧

Q69-2. どんなところに誇りを感じていますか。 (Q69で誇りを持っていると答えた方のみ回答)	
誇りを持たなければ生活できない。	丸子の歴史。
自然が豊かである。人々が助け合っている。	歳を取っても安心して暮らせそうです。
地域の未来を思い活動する人材・人財が豊富。	住み良い環境整備となっている。
宿場町としての歴史。	歴史がある。
人間性に温もりを感じる。	生活するに良い所だから。
丸子まちづくり協議会等が代表する様に、「地域の力」があると思う。	歴史や文化のある地域である。
生活するに良い所だから。上でストレスを感じない地域であり、誇りに思う。	東海道の丸子府という場所。
自分の住んでいる丸子を、自分たちで良くしようという雰囲気、お互いの気配り。	他地域に比べチャレンジしている。

- 誇りの内容としても、人や活動に関する答えが多く、16人中6人と4割弱にのぼり、愛着とともに誇りの源泉も人であることがわかりました。また、東海道の宿場町としての丸子の歴史に関するものが5人（3割）と、丸子の人々が歴史や文化に誇りを感じていることも明らかになりました。

## 2. 「幸せな地域とは」に関する記述回答

最後の質問「Q72. あなたの考える幸せな地域とはどのような地域ですか。」という質問に対する記述回答は、以下のようになりました。

### 主観的幸福度 Q72：幸せな地域に関する記述回答一覧

Q72,あなたの考える幸せな地域とはどのような地域ですか。	
住民が自発的に安心して、暮らせること。	相互扶助が実現できる地域。
自然に囲まれて、緑・水・空気が綺麗な地域。	近くの人たちと話し合える地域。
地域の問題を地域の人が、考え行動することができる地域。	安心して生活できる環境と恒久的な職場が整備されていること。
安心・安全・活力のある町。	親、子がともに暮らせる地域。
人と人との絆が保てること。年齢関係なく交流できること。	子どもから大人（高齢者まで）全ての人々が満足できる地域。
人々とのつながりが深いこと。	ご近所同士の関わりが強く、お互いを尊重しながら生活できる。精神的に豊かに生活が出来る。
人との関係がとても良く、不安もない地域であると私は感じています。	安全にまた、安心して住める地域であり、祭りも盛んである。
生業があり、普通に生活、自然の中でゆったり生活する地域。	

- 幸せな地域像としては、上記の愛着や誇りに関する記述回答を踏まえた形で、人とのつながりや住民の自発的な活動をあげる回答が最も多く、15人中9人と全体の6割にのぼりました。また、「安心」という言葉をあげられる方も5人（全体の3分の1）と多くいらっしゃいました。この場合の「安心」は、医療や防災・治安等の様々な要素に加え人間的なつながりも含まれている可能性もあると思われます。

## 6. 回答者の属性別主観的幸福度

主観的幸福度に関する 5 つの質問について、ご回答者の属性（性別・年代）ごとに平均を算出してみました。

表 1 1 : 男女別年代別主観的幸福度の平均

属性	人数 (人)	Q67	Q68	Q69	Q70	Q71
		生活に満足	地域への愛着	地域への誇り	地域に住み続けたい	子どもに住み続けてほしい
男性	16	2.9	3.07	3.14	3.47	3
女性	3	3.3	3.67	4	4	4
40代	1	3	3	3	3	3
50代	2	2.5	4	4	4	4
60代	6	3.2	3.4	3.2	3.8	3.6
70代	9	3	2.7	3.125	3.33	3
80代	1	3	4	4	4	1

図 3 : 男女別主観的幸福度各質問の平均

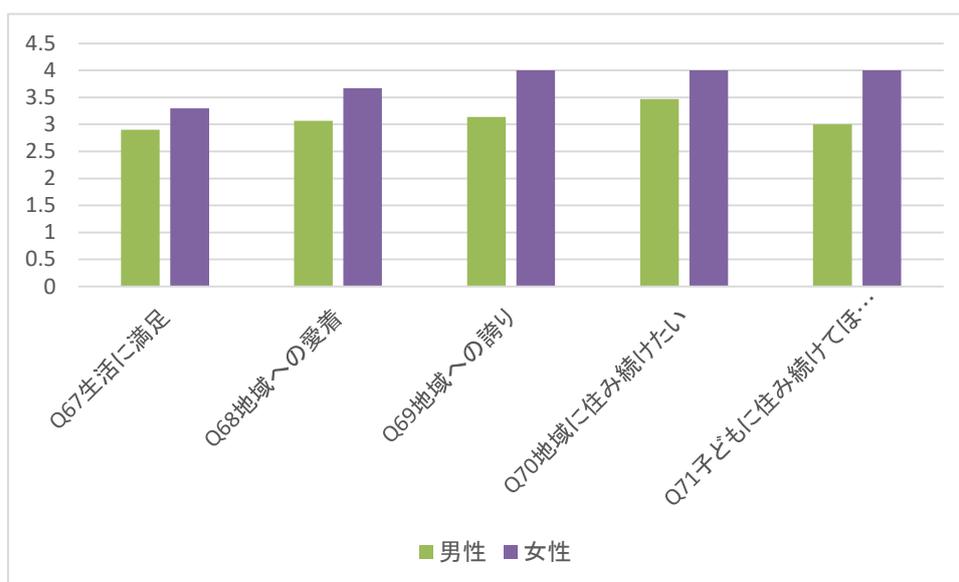
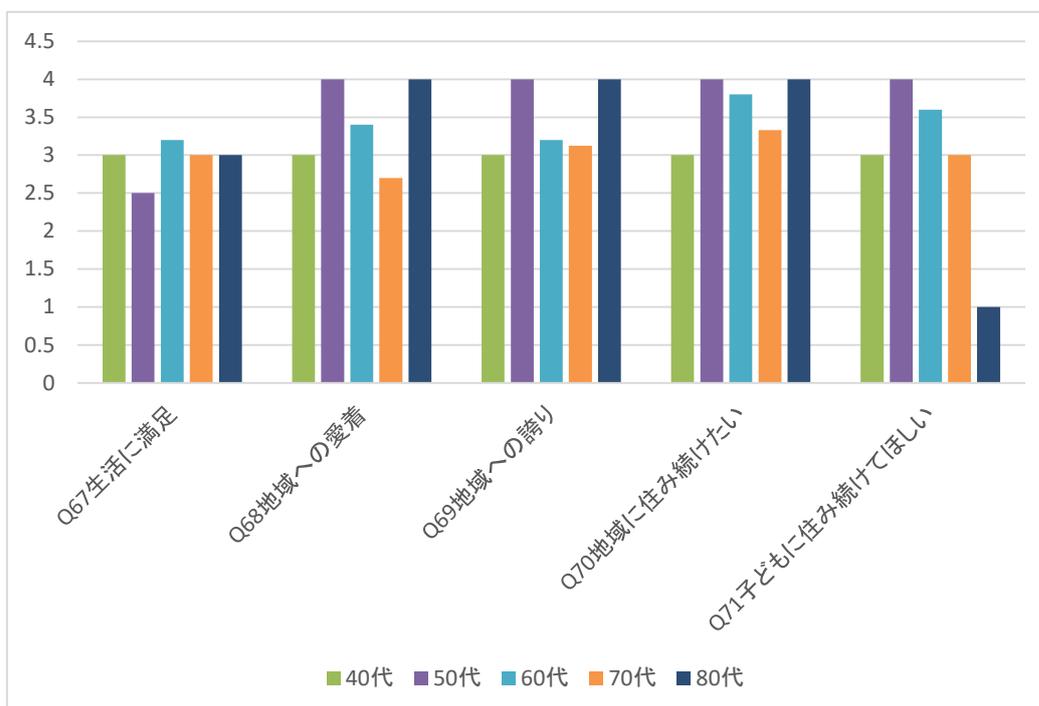


図3：年代別主観的幸福度各質問の平均



- 全体の人数が少なく、年代の偏りもあるため、属性ごとの傾向については、参考として記述させていただきます。主観的満足度に関する男女別の傾向としては、女性の平均がすべての質問で男性の平均を上回っており、現状に対する女性の肯定的な姿勢がうかがえます。年代別では、50代が、「Q67：生活への満足」を除きすべての質問で高い平均を示しています。70代の平均がQ67以外は低めに出ていますが、これは70代が最も人数が多く、様々な意見があったことにも原因があると考えられます。

#### 参考：6つの分野の内容

1.共生社会	地域の人々による参画と協力
2.経済・金融・産業	地域内経済循環
3.自然との共生	地域環境の保持・保全
4.暮らしと生活	すべての人々の豊かな暮らし
5.公共施設・設備	持続可能な暮らしの支え
6.文化・伝統	文化・伝統の保存と継承
7.主観的幸福度	生活への満足度と将来への希望

## 7. ワークショップ グループごとのご発表

診断ツールの集計結果を踏まえて、5つのグループに分かれて地域の強み・弱みや今後の取り組みについてご議論いただきました。

### ◆ 第1グループ

弱みとして共有された公共施設に関して議論をされました。公共施設の実情として、長岡西学区には地域内に集まれる場所がないため、

- ・ 空き店舗のみならず公民館の活用
- ・ 匠宿の活用方法の見直し
- ・ 小学校空き教室の利用
- ・ まちづくり協議会で経営する居酒屋



という案を出していただきました。

### ◆ 第2グループ



高齢化への対応を中心に議論をされました。30%以上にのぼる高齢化の進行や一人暮らし老人の増加、保健医療や日常的な必需品へのアクセスの問題等が現状の課題としてあげられました。対策としては、

- ・ 一人暮らし高齢者が集まる場として空き家や公民館を活用しコミュニケーションの機会を作る。
- ・ 病院や商店、金融機関への交通手段を確保する。

などの案をご提案いただきました。

### ◆ 第3グループ

丸子地域の強みである、歴史や自然を大切に生かすための案をご提案いただきました。

- ・ 地域の歴史を幅広い視点で理解することで文化の継承に努めること
- ・ 豊かな山河に彩られた自然を活用し、遊び場の環境を整備すること



### ◆ 第4グループ

集計結果を踏まえ、強みの強化と弱みの克服のために必要な解決策を考えて下さいました。強みは、地域内のつながりが強いことから、さらに「丸子まちづくり協議会」の組織力を高めることを挙げて下さいました。弱みとしては、元気な高齢者が多いものの、若い人との交流が少ない点や老人同士でもつながりの薄い場合もあること、開放された公共施設の少ないことを議論されました。

耕作放棄地の増加に対しては、家庭菜園や市民農園として利用するというアイデアが出されました。その他指標以外の弱みとして、

- ・ 共働きの増加
- ・ 女性が活躍できる場がほしい
- ・ 一人暮らし高齢者が増え、介護の必要性が高まっている

ということも挙げていただきました。



## ◆ 第5グループ



住民が交流できる場や、外からの人を呼び込むための案をご提案いただきました。

- ・ 麻雀などを通じて、地域の人々が集えるようななふれあいサロンの設立
- ・ 道の駅を3倍ほど拡大する
- ・ 住民が自由に利用できる施設の設立
- ・ 空き家の活用法として外国人向けのゲストハウスを設立

報告書作成：一般財団法人 CSO ネットワーク

連絡先： 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18 アバコビル 5階

TEL: 03-3202-8188 FAX: 03-6233-9560 E mail: office@csonj.org

URL: <http://www.csonj.org>



一般財団法人 CSOネットワーク  
CSO Network Japan